

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396100071		
法人名	株式会社プラス		
事業所名	グループホームあかり(みよし苑)		
所在地	愛知県みよし市打越町山ノ間86-2		
自己評価作成日	令和4年8月25日	評価結果市町村受理日	令和5年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigovosyoCd=2396100071-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染予防のため外出行事はすべて中止としているが、その中でもご利用様が楽しく生活を送れるよう季節の行事を企画したりご利用様の今したいことや、やってみたいことを聞き実際に行えるようにしご利用様の笑顔がたくさん見れるようにスタッフが丸となって取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【今年度外部評価は、コロナ禍の為、時間短縮・共有空間立ち入り自粛等、事業所と機関で実施方法を協議し、双方合意の下で実施した】
この1年は、法人移行あり、介護支援専門員変更ありの状況で、運営面にも落ち着かない時期があったことは否めない。しかし、管理者はじめ職員の思いは「利用者本位」からぶれることはなく、「やりたい事の実現」を実践している。利用者が、実際に手に取れる楽しみがあり、職員も一緒に楽しめるような、何気ない日常を楽しみにできる環境づくりに努めている。
コロナ対策は万全であり、依然コロナ感染ゼロを更新している。利用者の家族にも理解が進み、予約制の面会等の不自由にも協力が得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に職員にあかりの理念を伝え、地域密着サービスの意義も説明している。玄関、事務所にも提示しています。会議等でも話し合いをして理念を大切にしています	法人理念の意味と意義の理解に当たり、職員が自分の立ち位置を自身で考え、実践につなげられるように指導している。職員もこれをよく理解し、利用者本位の支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の方とつながりが難しくなってきたが以前のように地域の方々との交流が出来るように現在は感染予防に取り組んでいる	コロナ禍の自粛は続き、ホームへのお招きは難しい状況にある。近隣からは季節野菜の到来物があり、窓越し、ドア越しではあるが、お付き合いを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての勉強会、認知症サポーター養成講座などご相談があれば地域の方に向けて行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染状況を見ながら開催については毎回検討を行っている。開催が難しい場合は関係者少人数にて開催し書面にて報告し意見を頂いている	コロナ禍で、この1年は6回全てを書面開催にしている。ホーム内で会議を開催し、議事録を作成してメンバーに配布している。配布の際には、出来る限り手渡しを心掛け、口頭での報告、意見や提案の聞き取りを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や包括などと日々、入居状況や事故報告、困難事例、相談を行いながら質の向上に取り組んでいる	市の担当部署とは、ホーム運営の相談・報告を通じ、適切に連携している。コロナ対策では、補助金や物品の支援等で連携がある。運営推進会議議事録提出の際は、担当部署に出向き、口頭で説明・報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束についての勉強会を行い職員の共有認識を行いグレーゾーンについても疑問点などを話し合いながらケアの方法の再確認を行っている	身体拘束委員会を設置し、毎月委員会を開催している。基本的に全員参加であり、同時に勉強会も行うため、全職員への周知にも問題はない。身体拘束廃止に関する職員の意識は高く、身体拘束を行わない工夫を話し合う環境がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、虐待についての勉強会を実施。内出血等があれば職員全員、確認を行い事故分析を行い虐待の疑いがあれば市に報告を行う体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し学ぶ機会を作り理解を深めるようにしています。新しく入られた職員についても随時勉強会を行って行ます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様やご家族様の不安を軽減できるよう、ケアに関する考え方や取り組み、利用料金等、納得し同意をして頂けるよう丁寧な説明をしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。家族会を開催したり、来苑時にご意見やお話を伺い反映させて頂いています	コロナ禍であるからこそ、関係を密に保つように努め、定期連絡や、電話での随時連絡の際には、詳細な情報を提供している。家族の来訪の際には、同様に、家族の心配に配慮した情報提供に努めている。家族からも、忌憚なく意見や提案がいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い職員全員の意見交換の場を設けたり相談があれば個々に面談を行い意見や提案を話し合える場を作っている	毎月の会議で、職員意見の表出の機会を作っている。会議は合議制で、議題は全員で話し合い、決定している。決めたことは決定事項として取り組む仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や、悩み事や困りごとなどの不安な点を相談できる関係作り不安なく働きやすい環境作りを行いながら		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で研修に参加した書類を職員で閲覧したり勉強会や研修報告などを勉強会の場で発表して頂き、全職員と共有出来るよう取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の方と情報交換を行ったり相談や事例検討をさせて頂いたり勉強会の案内を頂いたりしています。サービスの質が向上するよう話し合っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、不安な気持ちを理解し、向き合い利用者様の思いを傾聴し本人の希望に添った支援が出来るように心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、不安な気持ちを理解し、向き合い利用者様に寄り添い信頼関係を深めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様が利用するにあたり不安がないか、問題がないかを確認しながら他のサービスについても提案させて頂いています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家族」のような関係が築けるよう、必要な買い物に出掛けたり家事を共に支え合って生活が出来る関係づくりをしています。また、尊厳を大切に良い関係が築けています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族が不安になることなく、安心して生活が送れるよう、話を傾聴し共に支えられるお手伝いをしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出が難しい事がありますがZOOMを取り入れ離れた場所からの顔を見ながらの面会も出来るように準備をいたしました	コロナ禍で、馴染みの場所への外出や家族外出は難しい状況が続いている。家族関係の継続を考え、出来る限り希望に沿った面会ができるように配慮している。電話の取次ぎ等にも対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	登録間もない方には特に職員が関わりを増やし孤立しない様にしています。心身の状態や気分の感情がある方には個別に傾聴したりし安心して生活が送れるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了時には何かあればいつでもご連絡下さいとお伝えし相談や傾聴を行っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや希望を聞き何を今、望んでいるか、どのように暮らすことが最良なのかを話し考え検討しています	日常の中での把握が主になっている。会話中、生活の様子から意向を把握し、希望実現に向けて取り組んでいる。ケアカンファレンスでは、職員全体で情報共有し、話し合いで、支援内容・方法を決定している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話から生活歴や価値観、地域との関わり等把握し職員全員が情報を把握出来るよう共有しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の様子を観察しながら総合的に把握するよう努め対応して行きます		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様、関係者様との話し合い、意見を出し合いその意見を反映させるよう介護計画を作成しています	6ヶ月毎にアセスメントから取り直し、支援内容のモニタリングと評価を行っている。サービス担当者会議には家族の参加もお願いし、意向に沿った支援内容になるように話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、個別の介護記録に日々の様子やご利用者様の言葉を詳細に書き情報共有し介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の急な要望にも臨機応変に柔軟に対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用様が安心して暮らせるよう、地域の方と意見交換や、消防避難訓練を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご利用者様の希望を大切にしています。家族受診が難しい時には職員が代行しています	ホーム協力医の、月2回の訪問診療を支援している。看護師を職員として配置し、利用者の健康管理を行うとともに、医師と連携した早期の治療につなげている。専門医は原則家族対応となり、家族と情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医や看護師に気軽に相談できる体制が取れています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は病院へ訪問し環境の変化で認知症が進行しない様声かけし傾聴をしています。病院の医師や看護師から経過説明を受け速やかな退院支援に結びつけています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期なった場合について、ご家族様と話し合いをし、安心し納得した最期が迎えられように取り組んでいます	入居契約時にホームの終末期支援について説明し、同意を得ている。基本的には、本人と家族の意向に沿った、ホームのできる限りの支援提供を方針としている。ほとんどの利用者・家族が、ホームでの看取りまでを希望していることもあり、協力医医師と連携しながら、状態変化の都度話し合いを重ね、方針を決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習や緊急時対応マニュアルを整備し勉強会を行い対応できるように周囲徹底を図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て年に2回、避難訓練、総合訓練を行っています。終了後反省会を行い皆で反省点を出し合い改善点について話し合っています	年2回の防災避難訓練を計画し、実施している。コロナ禍で消防署の立ち合いを見合わせ、出火場所を代えたり、避難方法を代えたり、想定できる限りの条件で実施している。非常食を使った炊き出し訓練、AED訓練等、対策には余念がない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊厳を持ち、誇りやプライバシーを配慮しながら言動に注意しています。個人情報の取り扱いに関しては細心の注意をしております	毎月の会議では、各委員会、勉強会を開催し、ホーム支援に必要な知識を深めている。特に認知症理解については、個別指導も含め、全職員への理解を進めている。また、認知症理解の上での、利用者一人ひとりに対する接遇についても話し合いで決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の指示ではなく、ご利用者様の思いや希望を聞き行っています。時間をかけ傾聴をしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく利用者様を優先させその方の今の気持ちを大切に過ごさせていただけるよう配慮しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけの際服を選んで頂いたりおしゃれが出来るよう声かけを行っています。2ヶ月に1回、訪問理美容が見えます。希望によりパーマやカラーもされています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを相談したり、下ごしらえ、盛り付け等を一緒に行い、楽しく食事をして頂けるようにしています。季節の食材を使い季節を感じながら楽しめるようにしています	食事はホームのカラーであり、利用者の生活の「1番」に位置付けている。月1回は行事食を楽しむ、季節のおやつ、季節料理、出身地の食材を使った料理、選択できる楽しみのビュッフェ開催等々、利用者の楽しみの食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握し確認しています。摂取量の少ない方、残された方には確認し工夫し提供を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前の口腔ケアを行い口腔内を清潔にし虫歯や肺炎予防に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに排泄のパターンを把握しトイレ誘導を行っています。トイレの訴えのない方にも声掛けし誘導を行いトイレでの排泄介助を行っています	トイレでの排泄を基本に支援している。現在は自立が難しい方が増え、半数近くが全介助という状態ではあるが、日中はトイレに誘導し、トイレでの排泄を支援している。利用者一人ひとりの状態や状況に合わせ、適切な手厚い支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維質を工夫し適度な運動を行い便秘にならないよう工夫しています。便秘の方の排便コントロールが出来るよう取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の希望に配慮し強制はせず楽しく安全に入浴が出来るように1対1にて職員がつき利用者様に配慮しながら介助を行っています	毎週水曜日、土日の入浴をお休みにし、清潔保持の観点から、4日間で最低週2回の入浴ができるように入浴管理を行っている。体調や心身状態の都合で、シャワー浴を選択する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に生活が出来るよう支援し夜間の安眠につなげています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとり責任を持ち服薬介助を行っています。服薬変更時副作用に注意し状態観察、情報共有が出来るようにしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事や楽しみを見つけ、個々の力を発揮され張りのある生活を送り、気分転換に行きたい場所に外出出来るよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で難しいが希望があれば散歩に出掛けたりドライブに出掛け戸外に出かけられるようにしています	コロナ禍の外出自粛が続く中、利用者の外に出る楽しみ、体を動かす楽しみに配慮し、様々なレクリエーションを企画し、実行している。駐車場を活用したお茶会やBBQ、外の食事会を楽しんだり、「あかり農園」を工夫して夏野菜を作ったりと、外に出る機会を作り、利用者の気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を持つことはされていませんが立替の形で必要に応じ買い物等出来る体制にはなっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご用件に応じて家族様の協力を得たり、電話が出来たり手紙を出せる環境になっています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある壁画を作り飾ったり、四季の花をフロアーに飾っています。空調についてはその都度調整が出来るようになっています	コロナ禍の為、共有空間への立ち入りを自粛し、視察無し。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファの配置を変えたことにより利用者様同士の居場所ができ談話されている姿が多くみられるようになりました		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの家具を持ち込まれたり、家族の写真飾られたり少しでも自宅にいるような気持ちで穏やかに過ごして頂けるようにしています	コロナ禍の為、居室への立ち入りを自粛し、視察無し。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要以上に手すりはつけておらず、自分の力を活かして自立した生活が送れるように安全を確保しながら自立への支援をしていきます		